

34 本吉スーツ有限公司



代 表 者 名 代表取締役 三浦 信男
設立年月日 昭和55年4月29日
所 在 地 〔本社〕〒988-0347宮城県気仙沼市本吉町猪の鼻134-2
TEL.0226-43-2301/FAX.0226-43-2303
U R L http://www.motoyoshi-suit.com
資 本 金 2800万円
従 業 員 数 27人
職 種 縫製加工業
事 業 内 容 希少なカットリンキング（反物×ニット）技術を有し、サンプル作成から本生産まで一貫して衣料品の製造に対応できる縫製加工工場。

独自の生地整形技術を活用した洗濯しても縮まない服で メーカーとユーザーのニーズに応え、新規受注を図る

テーマ

洗濯しても縮まない服をつくるための、生地整形技術の試作開発

省エネ型ボイラーで発生させた大量の蒸気を、ホフマン機を介して生地当てることで生地本来の寸法よりも不自然に伸びている状態を解消。生地寸法を事前に安定した上で裁断縫製することで、洗濯しても縮まない服を製作する。

事業の内容

事業取り組みの経緯

反物を芯棒に巻き取る際、シワができないように引っ張るため、伸縮性のある生地の場合、どうしても伸びが発生する。反物作成の段階で縮み防止加工を施しても、芯棒に巻く限りその効果は薄く、製造現場では、芯棒から外して24時間放置した後、縮むことを想定して大きめに製造する対策が当たり前となっている。現状では、洗濯後に縮んでしまうことは不可避であるが、当社ではニット衣服製造で培ったノウハウを活かした新しいアイデアから、縮まない衣服づくりに着手した。

実施内容

ニット衣服製造で長年培ったノウハウと設備を応用活用し、伸びてしまった生地を、事前に安定させることで洗濯後の縮み問題の防止を図るのだが、この新技術では大量の蒸気を発生させなければならないため、従来型のボイラーではコストが掛かりすぎるという問題があった。そこで本事業では省エネ型ボイラーを導入することで解決を図り、50素材138種類の生地にて試験を実施。無加工の生地と生地整形技術を施した生地での洗濯後の縮率を測定し、生地整形技術の実証と、その技術確立を目指した。



成 果

実証実験を繰り返した結果、16素材33種類で幅丈ともに変化がないことが確認された。残りの34素材105種類の生地については縮みが発生していたが、無加工のものと比べるとはるかに縮率が小さく、開発した生地整形技術がかなりの効果を発揮していることが実証された。

生地整形技術を施すことで、事前に生地の安定化が図られるわけだが、その結果、生地によってはその時点で最大12.7%の縮みが発生した。これは事前に購入した生地が短くなるということで、生産予定の枚数が足りなくなることが考えられる。そのため実施、製品の納入に際してはメーカーとの事前協議が不可欠であることを意識しておかなければならない。

実証試験では縮みを完全に予防することはできなかったが、現状の予防法より格段に効果的と言える結果を得た。本事業の目的の一つとして、素材別によるマニュアル化も模索したが、同じ素材でも色や柄、プリント加工の有無などの影響により縮み方に規則性がないことが確認され、素材別によるマニュアル化は困難であることも分かった。この解決方法としては、量産化の前に生地縮みテストを行い、生地ごとに最適な生地整形技術を施すことで、洗濯後の縮みを最小限に抑えることが可能となると考えている。



今後の展望

従来の縮み対策と比べ、格段に優れた生地整形技術を確立。洗濯後の縮みを最小限とすることを可能としたことで、メーカーブランドの信頼性確保と、消費者ニーズへの対応を実現したが、今後の最大の課題が生地整形技術施行の商品への価格転嫁と言える。しかし、縮まない服はメーカー、消費者ともに必要性の高い技術であり、対応策を検討したい。

他の企業が同じ技術を実行しようとした場合、多大な設備投資と、ラインの見直しが必要となるため競争優位性は高い。その点をアドバンテージとして、衣服へのこだわりが高い40～50代女性をターゲットとした高付加価値商品を展開するブランドへの営業展開に注力し、新たな受注獲得を図る。



本吉スーツ有限公司
代表取締役 三浦 信男 氏

応募のきっかけ

以前から衣類は洗濯すれば縮んで当たり前といった風潮を改善したいと考え、アイデアを温めていましたが、取引先から補助事業の話を伺い、この機に技術の確立を目指しました。独自の生地整形技術によって商品単価が上がってしまうことは分かっていました。それでも高級指向で育って来た世代の女性が40代50代となったこともあり、この技術のニーズは高いと考えています。デフレムードも解消されつつあるので、今後は再び良いものを求める時代になると期待しています。

ひと言メッセージ

近年の衣料業界は非常に厳しい状況です。大手メーカーも事業を縮小するなど大変な時代となっていますが、逆に言えば中小企業にもチャンスが回ってきたと言えるのではないのでしょうか。他にないオリジナル技術や自社ブランドの確立など独自性を打ち出すことで、業績アップを目指していきたいと思えます。

